

作家名

石城 麻衣

タイトル

みんなでアート



作家詳細

協働 学校名

木更津総合高校美術コース

コメント

多種多様な文化や、人々が交じり合い、豊かなまち木更津をみんなでつくっていこう！
という思いを込めて、植物や人の形、自由な線や自由な形を、いろいろな色で塗り重ねた中に、
そっと忍ばせてデザインしました。さあ、みんなで楽しくアートしよう！

作家名

永津 守



作家詳細

タイトル

空間回廊 2022

木(楠)に着色

コメント

展示作品は木彫の抽象彫刻です。
超次元の空間制作がテーマです。

出前ワークショップ作品

学校名

波岡中学校

タイトル

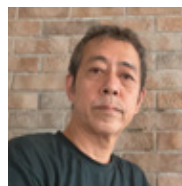
あたらしい世界・未来の作り方

コメント

波岡中学2年の生徒たちがつくった彫刻を一緒に展示します。
生徒の作品のテーマは
「私がワクワクするもの」
「私が素晴らしいと思うもの」
「私が好きなもの」です。

作家名

宗政 浩二



作家詳細

出前ワークショップ作品

学校名

暁星国際小学校

タイトル

のびる絵鏡

アクリルミラー他

コメント

小学校の子どもたちが制作した作品です。

絵が描かれた鏡が太陽の光を反射して、壁や天井に映し出される仕組みです。

鏡は手でグニャグニャと曲げることができ、

向きや動かし方によって絵の大きさや見え方が変化します。

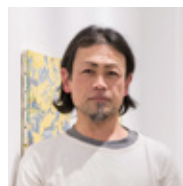
ぜひ実際に手に取って、子どもたちの自由な発想で描かれた色とりどりの

世界を楽しんでみてください。

作家名

矢成 光生

タイトル



[作家詳細](#)

- 01 木更津港今昔風景 カシュ、油彩
- 02 ビオラb カシュ、油彩
- 03 木更津浦(司馬江漢 作「木更津浦」「下総木更津浦晩景図」より) カシュ、油彩
- 04 蓮池図(模写) カシュ、油彩
- 05 ヒマワリ カシュ、油彩
- 06 Operation Tomodachi(神奈川冲浪裏) カシュ、油彩
- 07 Step Across the border 20-01 カシュ、油彩
- 08 サツキ(木更津市の花) カシュ、油彩
- 09 中の島大橋と木更津船 カシュ、油彩
- 10 Kisarazu Love♡ カシュ、油彩
- 11 ビオラa カシュ、油彩
- 12 松林 アクリル、カシュ、油彩
- 13 Strange Flower 20-04 カシュ、油彩

コメント

絵画の様式～環境と風景～

「みなとまち」として資源や貿易など恵まれた環境にあった木更津。

海、環境、世界をテーマに絵画とワークショップ作品のオブジェを展示します。

出前ワークショップ作品

学校名

真舟小学校

タイトル

「海のゴミで宝物をつくろう！」

ペットボトルビーズとプラ板を使ったストラップ&アクセサリーづくり

コメント

SDG's 14番目の目標「海の豊かさを守ろう」について学びました。プラスチックゴミがキラキラの宝物になりました。キャプテンやなちゃんと一緒に作った真舟小学校2年生の児童作品は宝箱のインスタレーションで展示。会期中は11/26、27、12/3、4に愛染院さんの蔵で、一般向けワークショップを1作品100円で実施します。



ご協力いただいた学校関係者・ボランティアサポーターの方々、心からお礼申し上げます。
木更津みなとぐちアートプロジェクト2022 ミナート スタッフ一同

ミンナとアート
みなとぐち

art-kisarazu.jp

作家名

関 直美



作家詳細

タイトル

つながる歯車

木、プーリー、太鼓、ハーモニカ、ホワイトセメント他

*ご法事が入った場合は本堂には入れませんので外から鑑賞願います。

コメント

歯車を回してみよう 音が出ます

歯車はそれぞれ回転の速度が違います

そのおもしろさと音になる不思議さを体験します

デジタル化する昨今ですがアナログなことも考えてみようといった試みです

また本堂の赤い絨毯に似合うセメントの小品もお供えします

出前ワークショップ作品

学校名

清川中学校

タイトル

ガラスはキャンバス、クレヨンでガラスに大きな絵を描こう

コメント

美術部による昇降口に描いた4つのガラスドローイングはそれぞれ見事な大作になりました。

みんなが毎日出入りする場所から、完成した時の達成感を学校のみinnで共有する風景が生まれました。

展覧会には持ってこられないのでその過程を美術部が記録し、そのスライドを会場で上映します。

作家名

関 直美



作家詳細

タイトル

コンポストエクササイズ

木、プーリー、便座他

コメント

体を大きく使って歯車を回してみよう。

また内部も見よう 大きな歯車につながった内部のギアが回転します。

便利なことはありがたいけれど面倒くさいことも楽しくやってみようといった観点から
当たり前毎日使っているトイレについて考えました。

そしてエクササイズするコンポストが生まれました。

実際に使える機能を備えていますが今回はモデルケースとしての展示です。

興味ある方は是非ご一報ください

作家名

荒木 美由



作家詳細

タイトル

And Then There Were None - 小さな貝塚

ライムストーン 木更津のアサリ 海の砂 など

コメント

人は生きながら、忘れたり、諦めたり、壊したりする。

無くなってしまうもの、使われなくなった場所、その上に新たな時間を積み重ねていく。

木更津市ではみることができなくなった貝塚、私の石と南清小学校のみんなの小さな貝塚で一層目を作ってみる。

みたことがない、誰もいなくなった景色。

「そこには何が見えますか？」

私たちがみるできない景色を想像してみる。

協賛：新木更津市漁業協同組合

制作協力：Yuki Mizuta / Yoko Araki / Takuya Kobayashi SpecialThanks：WSに参加してくれた南清小学校の皆さま

出前ワークショップ作品

学校名

南清小学校

タイトル

小さな貝塚を作ろう！

コメント

ゴミ捨て場というイメージが強い貝塚だが、人が生きてきた痕跡（歴史）が分かる場所である。

その歴史の指標ともなる貝塚をモチーフに木更津産アサリの貝殻と荒木の作品のカケラを融合させた“小さな貝塚”を制作する。

“小さな貝塚とは？”

石ができる何千年という時間、アサリが育つ2年間、今を生きる私たちが重ね合わせて作る立体を“小さな貝塚”と名付けた。同じ成分(炭酸カルシウム)でありながら含む時間が違う貝と石を今を生きる人間の時を積み重ねるワークショップ。私の想像を超えてくる貝塚が完成した。小さな貝塚の誕生は小さな彫刻家の誕生でもあった。

「腕が痛くなった」「海の匂いがする」「これはたぶん魚の化石」「まだまだ磨きたい」

たくさんの感想全てが面白かった。

普段意識することがない木更津の景色、歴史、あさり、石・・・違った視点で物事をみるキッカケになれたなら嬉しい。



ご協力いただいた学校関係者・ボランティアサポーターの方々、心からお礼申し上げます。
木更津みなとぐちアートプロジェクト2022 ミナート スタッフ一同

ミナとアート
みなとぐち

art-kisarazu.jp

作家名

西村 陽平



作家詳細

タイトル

FIRED BOOK

制作年: 2018~2020年、材質:本

コメント

本を焼く。本は紙であるから、燃えて黒く灰になり、無くなってしまう、と普通は考える。これは間違いではないが、これだけではない。黒く灰となるのは、焼く温度が500度ぐらいである。さらに1000度以上の高温で焼くと、白くなり本の形が残る。紙により微妙な変化があり、形も様々な様相を呈する。戦後間もないころ発行された文庫本がある。70年を経て、紙は変色してもろくなっていた。これを焼くと、白くなり残る。本は文字が大事だが、文字は消えてしまう。「焼成」とは、時間を圧縮するということだ。ヤマニ綱島商店は100年以上の時を経て、今は使われていない。当時使われていた様々な物が残されている。これらの中に「焼成本」を滑り込ませるように展示する。

出前ワークショップ作品

学校名

富来田小学校

タイトル

1本の線をつないで描く

グループ制作

コメント

事前に服など汚れることを想定して準備をしていただいた。特別の服を着て本番に臨んだ児童もいたようですが、まさにほとばしる絵の具のように、熱気にあふれた作品となった。

作家名

小林 雅子



作家詳細

タイトル

あなたの書店の私の本棚

コメント

木更津の街の住人に愛されて生活に根付いた書店に、本をテーマにした作品を展示します。
みんなが読む本を売っているお店に、読むことの出来ない本を置く。
それだけでワクワクします。
私の作品を見て、触れて、その物語の世界に入ってもらえたら嬉しいです。

出前ワークショップ作品

学校名

請西小学校

タイトル

世界に一つだけの自分の本

コメント

子供も大人も参加したワークショップは、皆さんの頭の中をこっそり覗き見るような楽しい体験で、「世界中の全ての人アーティストである。」と感じられました。
子供の頃、図工や美術の時間が堅苦しくて苦手でした。
時間内に同じものを作って、図工の成績が付けられる・・・
でも皆さんの作った作品は、絵の上手い人、デザインセンスが良い人、文章が上手い人、計算しながら制作するのが上手な人・・・
あ！、ダジャレが上手く、ブラックユーモアに溢れた人も。
多くの特性が溢れる作品に仕上がったと思います。
いろいろな目線で作品を楽しんでみてください。

作家名

刈込 芳一



作家詳細

タイトル

Untitled

流木・鏡

コメント

私は、空・海・山・川等の地球のエネルギーを感じ、制作しています。
今回の作品は昔遊んでいた富津の海(大貫)での流木を生徒と拾い集め、鏡とコラボし、インスタレーションします。場所は鳥居崎海浜公園に、絵を描くように、流木と鏡でドローイングします。

出前ワークショップ

学校名

木更津総合高校 美術部

コメント

流木と出会うことは、中々愉快で面白い。何処から来てここにいるのだから。
山登りもそうだが、時間と生の体験が痺れる。

また、流木の木肌も時間が経っているせいか、綺麗だ。富津の呼び名で潮木(しおき)とも言う。昔漁師だった親父の言葉かもしれないが？

富津の海岸に居ると何故だか心が落ち着くのは何故か？小さい頃の遊んだ記憶なのかな？

美術部の生徒たちと富津海岸で潮木(流木)集めを数回行いました。その集めた潮木を鳥居崎海浜公園で生徒たちと作品を作り上げていきます。

「みなとぐちART WEEKスタンプラリー」展示場所⑨のスタンプは

以下の展示会場にてスタッフにお申し付けください。

展示場②(木更津市中央公民館多目的ホール) または、展示場⑥(旧木更津市保健相談センター)



ご協力いただいた学校関係者・ボランティアサポーターの方々、心からお礼申し上げます。
木更津みなとぐちアートプロジェクト2022 ミナート スタッフ一同

ミンナとアート
みなとぐち

art-kisarazu.jp

作家名

宗政 浩二

タイトル

彼方からの色彩

アクリルミラー他



作家詳細

コメント

特殊な鏡で太陽光を反射させ、光で描く絵画です。

移動する太陽と自然の風がコンクリートの壁に時間と空間を視覚化します。

晴天の日、限られた時間にしか現れない、一度限りのアートワークを体験してください。

「みなとぐちART WEEKスタンプラリー」展示場所⑩のスタンプは

以下の展示会場にてスタッフにお申し付けください。

展示場②(木更津市中央公民館多目的ホール) または、展示場⑥(旧木更津市保健相談センター)

作家名

石城 麻衣



作家詳細

タイトル

ウタウイノチ

段ボール、針金、油絵具

サポーター：木更津総合高校美術コース

コメント

木更津第二小学校の4年生のパワー溢れる作品と、證誠寺の長い歴史の中に宿る、“動と生”のエネルギー。太陽の恵みや大地のエネルギーは力強く動きながら、大地から天へと向かい放出され、廻り続ける。そして、過去・現代・未来を循環し紡がれた空間を、描く様に繋ぎ、生への祈りを込めて作品を制作した。

出前ワークショップ作品

学校名

木更津第二小学校

タイトル

“動”をつくろう！

コメント

紙粘土を使用し、“動”をテーマに制作しました。

こどもたちの発想力って素晴らしい！

素材とふれあいながら、とても素直でエネルギッシュな作品に仕上がりました。

こどもたちのユニークで元気いっぱいの作品をぜひお楽しみください。

作家名

齋藤 英理

タイトル

見えないものを想像する

映像作品（15分）

コメント

相手の気持ちを想像して、誰かを思いやることは社会生活でとても大切です。相手の思い描いている色、形、大きさ、距離などの視覚情報が自分のイメージと異なるということは当然であり、相手に寄りそってそれらを想像することは、人を思いやることにもつながると思います。今回児童が作った作品は実際に手を動かした本人は目隠しをして見えていない状態なので、見えない物事への模索とも言えるでしょう。そして、作品制作のヒントとなる説明役の言葉に耳を傾けることはできたのでしょうか。

作品を制作した児童はどんなお題で、自分がどんなものを作ったのかわからない状態で、この展示室にやってきます。ペアの相手につけてもらったタイトルは作品を探す手がかりになるのでしょうか。手の記憶というのはどのくらいの期間持続することができるのでしょうか。美術や作品制作には正解というものはないので、その不明確な何かを一緒に探し合えたら面白いのではないかと思います。ワークショップ参加児童、そして鑑賞者にとって、視覚以外の表現の重要性について再認識できる機会となれば幸いです。

撮影：池添 俊

協力：木更津第一小学校のみなさん、ボランティアスタッフのみなさん

出前ワークショップ

学校名

木更津第一小学校 6年生 62名

タイトル

見ないで作る、手探りの表現

目隠しをして制作した粘土作品

コメント

見える状態の説明役と見えない状態の制作役のペアで行う、粘土を使った作品制作のワークショップを行いました。説明役にはNGワードを設けたお題の紙を配り、使って良い言葉に制限がある中で相手とコミュニケーションをとる必要があります。制作役は説明役から聞いたイメージをもとに粘土で造形しますが、完成後も展示会場に来るまでは作品を見ることはできません。30分の制作の後、説明役が相手の作った作品にタイトルをつけ、役を交換します。タイトルは制作した本人と説明役だけが知るもので、制作役の児童にとって自分の作った作品を展示会場で探す手がかりとなります。

作品をよく見ると何かしらの具体的なイメージがあり、説明役のヒントからお題を読み取ってなんとか形にしようとした痕跡を見ることができます。目をつぶって作ったとは思えない造形的な作品や今ひとつどんな状態か分からないが相手とのやりとりを感じられる作品など、それぞれが時間内に工夫して制作をしました。お互いのコミュニケーションの綿密さと見えない中での空間把握能力によって、これらの表現には違いが出たかと思えます。誰がどの作品を制作したのか、また、どのようなお題が出題されたのかは、鑑賞者に知る術はありませんが、手の痕跡、またはやりとりのプロセスを想像する鑑賞体験ができると思います。

作家名

加藤 修



作家詳細

タイトル

自然木による木組み制作

素材等（ワークショップ開催場所の自然木の枝）

コメント

作品制作では、時間の経過や生命・存在について素材が持つメッセージ性を用いながら制作しています。自制作した鉛のパネルを支持体として描いたり、朽ちた木や廃材を材料に用いて削り出し画面に配置することも多く、「描写」についてもイリュージョンの効果よりも、描くという行為自体に関心を持ち向き合っています。私は伝達すべきメッセージを的確に伝える一つの手段として「作品」を認識していますので、自制作による作品とともに自作のワークショップ企画も同様の価値に位置付けています。

ワークショップ

学校名

鎌足小学校、一般の方

コメント

ワークショップで制作する木組みは、「人」という漢字のような2次元上の支えあうイメージとしての形ではなく、実際にしっかりと自立することを意識した構造体として制作してもらっています。材料は、ワークショップ参加者の生活圏または関係のある地域に根付く樹木の枝を用いて、参加者が「自身もまた地域に息づく存在であること」を自然に体感できるように設定しています。また日常に人工素材が溢れる時代にあって、自然木の木肌の感触やその重さを実感することも、重要な価値の伝達と考えています。枝のサイズも大きめなのは、小学生が一人では運びづらい状態をわざと作り出し、大きいものを作りたいという動機が生まれた際には協力が欠かせないことを体験する環境としています。作業は木の枝の自然形体をうまく利用しながら、接点をシュロ縄で「結く・結ぶ」という動作を繰り返し、等身大から徐々に大きくしていきます。作品は、材料である自然木の形体の魅力にも支えられ、魅力的なオブジェとして完成しますが、このワークショップでは特に、結果としての「作品」としてだけでなく、その制作過程での思考や掲げた制作上のテーマについて会話することにも、大きな価値があるものと考えています。今回のワークショップでは、大学生をファシリテーターとし、親子での参加も可能としていますので、参加者は多世代との共同制作となり、互いの知恵や力、価値観と新鮮に向き合うことになります。



ご協力いただいた学校関係者・ボランティアサポーターの方々、心からお礼申し上げます。
木更津みなとぐちアートプロジェクト2022 ミナート スタッフ一同

ミンナとアート
みなとぐち

art-kisarazu.jp

作家名

宗政 浩二



作家詳細

出前ワークショップ作品

学校名

暁星国際小学校

タイトル

菩薩様の空

アクリルミラー他

コメント

ワークショップで児童が制作した「空にいるもの」のシルエットを描いた鏡で
浄行菩薩の上の天井に光の絵を映し出します。

晴天の日、午後2~3時頃だけしか見ることができない作品です。

作家名

加藤 修



作家詳細

タイトル

幟旗をつくる

布、水性ペンキ

コメント

作品制作では、時間の経過や生命・存在について素材が持つメッセージ性を用いながら制作しています。自制作した鉛のパネルを支持体として描いたり、朽ちた木や廃材を材料に用いて削り出し画面に配置することも多く、「描写」についてもイリュージョンの効果よりも、描くという行為自体に関心を持ち向き合っています。私は伝達すべきメッセージを的確に伝える一つの手段として「作品」を認識していますので、自制作による作品とともに自作のワークショップ企画も同様の価値に位置付けています。

出前ワークショップ

学校名

鎌足小学校

コメント

今回のプロジェクトを印象づける作品でありたいと思い、駅前から連なる大作を企画しました。最終的に幟旗を展示するまでには、幾段階もの過程がありました。まず、当プロジェクトに感じること、または期待として、海・風・爽やかさを連想させるペパーミントグリーンをイメージカラーとしました。続いて、鎌足小学校の子どもたちに協力してもらい、一人に一枚ずつ抽象性の高い作品を作ってもらいました。各自の得意なポーズのシルエットを布に写し取り、その内側、外側を自由に彩色するものです。この手法の魅力は、本人が直接布上に寝そべり輪郭を写し取ったシルエットなので等身大であり、そのサイズからも、制作した現在の記憶がリアルに記録されることになります。完成後、子どもたちの作品は、先に用意したイメージカラーの布と接合され、かなり縦長（縦3m）の幟旗となります。接合のための縫製作業、幟旗用ポール取り付け帯の縫い付けは、鎌足小学校ご父母有志が行っていただきました。そして完成した約60枚の幟旗作品は、駅前から海岸に伸びるアーケード約200mに展示されています。幟旗はこれからの時代を築く児童の躍動感と地域活性の思いを重ねながら、木更津の海風にはためきます。当初、イメージカラーとして選んだ色彩の幟旗の布が街環境でどのように目に映るか心配でしたが、適度に目立ちながら寺社の多い歴史ある街並みにも馴染んでいたのが安心しました。歴史を感じさせる寺社の銅葺き屋根の色彩にも呼応しています。多くの世代や立場の方の協力で完成に漕ぎ着けた作品となりました。



ご協力いただいた学校関係者・ボランティアサポーターの方々、心からお礼申し上げます。
木更津みなとぐちアートプロジェクト2022 ミナート スタッフ一同

ミナとアート
みなとぐち

art-kisarazu.jp